

－平成18年度 活動内容－

平成18年度の活動内容

①ネットワーク通信「にぎわい」の発行

会員相互の情報交換の場として、ネットワーク通信「にぎわい」の発行を行った。

②総会・幹事会・シンポジウムの開催

③ホームページの拡充・更新

にぎわい通信、トップページのリニューアル等のホームページの拡充を図った。

④その他の活動

(1) シンボルマークの作成、パネル製作を行い、総会会場で展示を行った。製作したパネルは、P16～P21参照。

(2) 幹事会の協議を受け、平成18年11月号(101号)より、ネットワーク通信「にぎわい」に「日本海側の海岸や海辺に打ち寄せる漂着物について」と「NPOの活動紹介」の特集記事を追加した。内容については、P22、P23参照。

(3) 幹事会にて、平成19年度の総会開催日時、開催内容について協議を行った。

平成18年度に製作したパネル

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク

目的
北海道から九州まで、日本海側の各市町村などで構成された「日本海にぎわい・交流海道ネットワーク」は、日本海をめぐる地域間の交流促進と日本海側の連携を深め、各地域の発展を目指しています。

会員
県会員…14団体 市町村会員…54団体 管理組合…1団体 合計 69会員

主な活動

(1) 総会・シンポジウム等の開催
年1回、総会開催、シンポジウムや講演会を実施しています。

(2) イベントの開催
平成8年～9年度に、「成吉思丸」の寄港イベントを開催しました。

(3) ラジオ放送の開催
平成16年度に、設立10周年記念事業として、日本海側全15局で共同制作する特別番組を制作し、放送しました。放送中に紹介したプレゼントの景品は、大変人気でした。

(4) 情報誌の発行
北海道～九州までの各地の情報を順番に、毎月発行しています。

(5) ホームページの拡充・更新
平成17年度は、日本海側の魅力を発信するため「にぎわい探検隊」の活動を行い、その成果をホームページで紹介しました。また、日本海にぎわい・交流海道ネットワークの活動報告、情報誌「にぎわい通信」のホームページ掲載などを行いました。

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク
URL <http://www.nihonkai-nigiwai.com/>

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク パネル・ポスター展

日本海側を中心に、港、海辺、海岸などの「にぎわい」をテーマに、パネル・ポスターで、各地域の「にぎわい」を紹介します。

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク
URL <http://www.nihonkai-nigiwai.com/>

稚内市 『北海道遺産 北防波堤ドーム』

北防波堤ドームで開催されたコンサートの様子

稚内市にある北防波堤ドームは、北端頭が旧樺太航路の発着場として使われていたとき、ここに道じる道路や鉄道へ波の飛沫がかかるのを防ぐ目的で、昭和6年から昭和11年にかけて建設された半円形ドーム型の防波堤です。

古代ローマ建築物を思わせる太い円柱とならばな曲線を描いた回廊は、世界でも類を見ない独特の景観と構造を持ち、港土木史上に残る傑作であり、北海道の歴史的な建造物として、2001年には北海道遺産にも指定されています。

旧樺太航路時代ごろから樺太へと渡る人々ににぎわいを見せていた北防波堤ドームですが、半世紀以上経った現在は、稚内市のシンボルだけにとどまらず、北海道のシンボルの一つとして一年を通じて様々な催し物が開催され、市民や観光客が多く訪れ、にぎわいを見せています。

稚内市の概要

面積: 760.80km²、人口: 41,885人
市名の由来: アイヌ語の「ヤム・ワツカ・ナイ」(冷たい水の出る沢)が語源

日本最北端に位置する稚内市は、宗谷海峡をはさんで東はオホーツク海、西は日本海に面し、宗谷海峡からわずか43kmの地にサハリン(旧樺太)の影を望む開港の街。

「水産」「商工」「観光」を基幹産業とする宗谷地方の行政、経済の中心地です。

稚内と交流の橋となつたロシア連邦サハリン州ははじめとする北方圏諸国への玄関口としても知られています。

自然環境としては、宗谷海峡を中心にオホーツク海、日本海に面している稚内市は、利尻・礼文・サロベツ国立公園を有する、豊かな自然環境が広がっています。平均気温は7℃前後で、最高気温は25～27℃、最低気温はマイナス13℃～15℃となっています。また、冬になると宗谷海峡の海には、流氷が漂着することもあります。

市の木と花
サクラ、ナナカマド、ハマナス

礼文町 『花まつりでにぎわう香深港』

「花まつり」でにぎわう香深港イベント広場の様子(礼文太鼓の演奏)

アプビの種貝放流体験

レパンアツモリソウ

香深港

礼文町は、利尻・礼文・サロベツ国立公園の中でも、レパンアツモリソウなどの礼文島固有種をはじめとする約300種もの高山植物が咲き乱れる風光明媚な花の島、そして海の幸豊かな漁業と観光の島です。特に、毎年6月に開催される「花まつり」は、花々が咲き誇る爽やかな初夏を彩るまつりとして有名で、町民のみならず、島外からたくさん観光客が訪れ、にぎわいをみせます。

また、最近では、地元小学生を対象に「ポートウォッチング」等を積極的に実施し、小型作業船等による港内見学やアプビの種貝放流体験などを通して、若い世代に港をより知ってもらう活動にも力を入れています。

礼文町の概要

面積: 81.33km²、人口: 3,433人
町名の由来: アイヌ語の「レパンシリ」(沖の島)が語源

礼文町は、北緯45度30分14秒、東経141度4分16秒、稚内の西方60キロメートルの日本海上に位置する日本最北の島にある町です。町には、最高峰の礼文岳(標高490メートル)を中心にたらかな丘陵性の地形が広がっており、冬の厳しい偏西風を受ける西海岸は切り立った断崖絶壁が連なり、東海岸はたらかな山並みが海へと続いています。

その豊かな自然により、利尻・礼文・サロベツ国立公園にも指定され、海拔ゼロメートルから高山植物の群生していることが全国的に有名なほか、幾野・地蔵岩・標岩などの奇岩怪石やメノウ原石が打ち寄せるメノウ浜など多くの観光名所を有しています。また、エゾハフツウニや利尻昆布の産地として有名で、海の幸豊かな「漁業と観光の島」として知られています。

町の島、花と木
コマドリ、エゾスユキソウ、シシバナ

利尻富士町 『観光客でにぎわう夢の浮島』



利尻島は、島のシンボルで日本名山百選にも選ばれている利尻富士を有しており、利尻・礼文・サロベツ国立公園に指定されるなど、我が国最北部の観光地としても知られています。
利尻富士町は、その利尻島の東側を占める利尻富士の裾野に位置する町で、北国特有の雄大で鮮烈な風景を求め、毎年 25 万人程度ものたくさんの観光客が訪れています。特に夏場の観光シーズンには、島の玄関口でもある港は観光客でにぎわいを見せ、観光客を出迎える観光バスが港に整列した光景はこの時期ならではのものとなっています。

利尻富士町の概要



面積:105.66km²、人口:3,168 人

町名の由来:アイヌ語の「リイ・シリ」で「高い山」が語源

利尻富士町は、日本の最北端から約 52 km の海をへたてて、東経 141 度 14 分、北緯 45 度 10 分、日本海の北方に浮かぶ、秀峰利尻山(1,721m)の麓、105.66km²(利尻島の 59%)の面積を有する漁業と観光を中心としたまちです。気候は沿岸一帯を流れる対馬暖流によって受ける影響が極めて大きく、温暖で四季を通じての最高気温は 29 度、最低でも零下 15 度以下になることは極めてまれで、夏は涼しく冬は積雪も少なく恵まれており、北海道の北部地方の中ではすこし暑いといえます。

町の島、花と木

リシリコマドリ、リシリヒナゲシ、エゾマツ、ナナカマド



利尻町 『沓形港 豪華客船・ふじ丸入航』



利尻町の沓形港は、島民の生活、文化の向上や都市との交流の玄関口として、重要な役割を担ってきました。さらに港湾機能の充実を図るため、災害時における緊急物資の輸送等ができ、30,000 トン級の船舶が接岸可能となる耐震岸壁を平成 15 年から整備してきました。その岸壁が平成 18 年 5 月より一部共用開始となり、この日、島民や港関係者らが待ち望んだ接岸第一号として、「豪華客船・ふじ丸」が入港しました。港では、初接岸を祝う式典が執り行われ、乗客代表や船長に記念品や花束の贈呈がなされ、にぎわいを見せました。今後も、「にほん丸」や「飛鳥 II」など 9 回にも及ぶ大型客船の寄港が予定され、多くの観光旅行者が利尻島に足を運ぶことになり、最北の雄大な自然を満喫することでしょう。

利尻町の概要



面積:76.49km²、人口:2,896 人

町名の由来:アイヌ語の「リイ・シリ」(高い山のある島)が語源

北海道の北緯・稚内市から西方約 53km の日本海に浮かんでいるように見える島、「利尻島」の西南端に位置し、島の中心には秀峰利尻山(1,721m)がそびえ立っています。

春から夏にかけては、数多くの高山植物が咲き、リシリコマドリをはじめ多くの野鳥がさえずる自然の宝庫です。また、全国的に有名な「利尻昆布」や「フニ」など日本海の海の幸にも恵まれた漁業と観光の町です。

利尻町は、「未来に誇れる町づくり」を目指すために、基幹産業である水産業・観光産業の振興を高め、生活環境の整備を重点とし、住んでよかったと実感できる、魅力あるふるさとづくりを目標に町づくりを進めています。

町の花と木

リシリコマドリ、エゾカンゾウ、ハイマツ、チシマザクラ



苫前町 『北海道風車まつり』



国内最大規模の大規模風車群が町のシンボルとなっている苫前町では、参加型イベントとして町民 1 人が 1 輪の「花風車」を作成することを目標とし、完成した色とりどりの「花風車」を、漁港内にある「とまふ夕陽が丘未来港公園」に飾った「北海道風車まつり」が開催され、毎年多くの参加者でにぎわいを見せ、祭りでは、歌謡ステージやアミューズメントコーナー(子ども向け遊び場)・風車見学体験・各種屋台などがより一層「風車まつり」の参加者を楽しませてくれます。

苫前町の概要



面積:45,453km²、人口 4,203 人

町名の由来:アイヌ語の「トマオナイ」(エゾエンゴサクのあるところ)が語源

苫前町は、北海道の北西部留萌支庁管内の中央部に位置し、西に日本海に臨む漁業と豊かな森林資源を有する、農林畜産業の街として発展しています。

明治 13 年、開拓使布達により苫前村役場が設置されました。その後、明治 23 年(1890 年)に、開拓が最盛期で、約 22,000 トンも採れるなど、古くから沿岸漁業も活気がありました。その後、明治 35 年 4 月力尾村を編入し二級町村となり、昭和 23 年に今の苫前町となりました。昭和 26 年には第 2 種漁港の指定を受けて漁港整備が進み、水産業を中心とする苫前地区と、農林業主体の古丹別地区としてそれぞれ発展し、新しい世代を見据えた町づくりに努力しています。

また、日本海に面した本町は、「風」が強い町として広く知られる中、近年、層層層に発生する風を有効利用した風力発電事業に取り組みんでいます。国内最大規模の風車群が 40 基以上林立する雄壮で異国を思わせる風景は、町のシンボルとなると共に、最近では新たな観光地としても人気を呼んでいます。

町の花と木

エゾエンゴサク、ナナカマド



小樽市 『帆船・海王丸入港』



海王丸は、商船学校の練習船として誕生した帆船で、昭和 5 年 2 月 14 日に道水で以来、59 年余の間に 106 万海里(地球約 50 周)を航海し、11,190 名もの海の若人を育てました。また、国内のみならず、世界の人々からも「海の貴婦人」と賞賛され、愛され続けられてきました。そんな海王丸が小樽港に入港。その華麗な姿を一目見ようと多くの観客で港はにぎわいました。

小樽市の概要



面積:243.13km²、人口:141,921 人

市名の由来:アイヌ語の「オタ・オルナイ」(砂浜の中の川)が語源

雄志支庁北部、日本海側沿岸に位置する港町の小樽市は、古くから港町都市として発展し、かつては町の中に運河が引き込まれた「運河の町」として、今もその一部が保存されています。さらに、「近代港町の父」と言われる広井勇博士の手によって建設された日本初のコンクリート製防波堤として名高い「北防波堤」は、100 年を経た現在でも当時のままに機能する近代建築の金文字塔であり、そのほか市内には歴史的建造物が数多く残り、全国有数の観光都市としても人気が高い町となっています。

また、小樽市は古くから「坂の街」とも呼ばれ、代表的なものに船見坂(ふなみざか)や地獄坂があり、坂の上から望む風景は、港と調和した観光都市小樽の代表的な景色となっています。

市の島、花と木

アオヒ、ツツジ、シラカバ



奥尻町『奥尻港海岸 なべつる岩』



晴天に恵まれ家族連れや観光客でにぎわう奥尻港海岸の様子

奥尻島にある奇岩・なべつる岩は、奥尻島のシンボルの一つとして、古くから島民の間で親しまれてきました。最近では地元青年団有志が昭和47年から立ち上げた「なべつる祭」が、年々規模を拡大し、現在では「奥尻3大祭」として親しまれるまでになっています。

また、なべつる岩を望む海岸は、海水浴シーズンともなると、多くの市民や観光客でにぎわいを見せ、訪れた人々は潮風香る陸島のすばらしい夏を満喫しています。

奥尻町の概要 面積:142.97km²、人口:3,725人



町名の由来:アイヌ語の「イクシユン・シリ」がその後「イクシリ」と訛ったもので、イクは「向こう」、シリは「島」が語源。

奥尻島は北海道の南西端に位置し、江差町の西北61km・瀬棚町の南西42kmの日本海に浮かぶ離島です。東西111km、南北27kmの南北に長い台形状の島で、道内では利尻島に次ぐ面積を誇ります。島の周囲は実に84kmにも及び、複雑な海岸線は島の幸の宝庫となっています。

島の全域は花崗岩の段丘で形成され、その段丘を横切って河川が流れるため海が多い地形となっています。また、かつて噴火が探査されていただけあって、温泉が湧く島となっています。

1993年7月12日の北海道南西沖地震で、津波や土砂災害により多数の犠牲者を出した。

奥尻島全域からなる町。内陸部は山が多く、町の多くは海岸付近にある。

産業は主に漁業で、ウニ漁などが主である。

町の花と木

ハマナス、オンコ



青森港でのにぎわい

平成18年のゴールデンウィーク中に大型客船が、続々入港！



入港歓迎セレモニーでは、青森市の象徴でもある「ねぶた」の実演も！

4月29日、5月1日に入港した「クリッパーオデッセイ」(5,218総トン)と青森港のシンボル「アスラム」



5月7日に入港した「スタテンダム」(55,451総トン)



※秋田港(秋田県分)、酒田港(山形県分)は、総会時に、みなとオアシスのポスターを出展したため、パネル製作をしていません。

新潟県『にぎわう新潟西海岸』



海水浴で賑わう新潟西海岸

面的侵食対策工事により広い砂浜が戻りつつある新潟西海岸では、多くの人々が楽しめる海岸を目指し、さまざまなイベントが開かれています。夏場は海水浴客などでにぎわほか、一般開放された第一・第二突堤は市民の憩いの場となっており、多くの方に利用されています。



イベントの様子



釣客や散歩に訪れる人たち



富山県『海王丸パークのにぎわい』



多くの人たちで賑わう帆船「海王丸」

海の貴婦人・帆船海王丸を中心とした海王丸パークには、年間約80万人が訪れています。園内では、商船学校の練習船として、昭和5年2月14日に進水して以来、59年余の間に106万海里(地球約50周)を航海した“海王丸”が現役のまま公開されています。他にも日本海交流センターや野鳥園、レストランや広場などがあり、海洋教室、カッター教室、なごかせ乗船体験、巨大フリーマーケットなど様々な催しが行われています。

帆船海王丸がすべての帆を獲る「総帆展帆」は、年に10回ボランティアの人たちの協力により実施されており、その優美な姿を見学し県内外から多数の人々が訪れています。



なごかせ乗船体験



イベント広場で行われる巨大フリーマーケット



石川県 『七尾フィッシャーメンズ・ワーフ』

七尾フィッシャーメンズ・ワーフ
「能登食祭市場」



七尾フィッシャーメンズ・ワーフ

七尾フィッシャーメンズ・ワーフ「能登食祭市場」は、能登地域の観光名所として観光コースに必ずといっていいほど組み込まれており、多くの観光客が訪れています。
また、平成14年には、隣接地に2.5haのイベント広場や観光船の船着場、観水広場を備えた臨海公園（七尾マリンパーク）もオープンし、両施設が一体化したイベントや誘客活動の相乗効果によって能登地域の活性化への活用がさらに期待されています。



施設の写真



マリンパーク



福井県 『つるが・港の祭典～きらめきフェスティバル～』

つるが・港の祭典
～きらめきフェスティバル～



ダンスコンテスト 審査発表&表彰式

敦賀港を舞台とした港の祭典「敦賀きらめきフェスティバル」は、7月下旬に、敦賀港金ヶ崎緑地をメイン会場として開催されています。

同フェスティバルは、1999年に開港100年を祝って開催された「きらめきみなと博」をきっかけに、毎年「敦賀サマーフェスティバル」として開催されてきましたが、2005年から名称も改め、新企画盛りだくさんの内容となりました。

金ヶ崎緑地の特設ステージでは、ダンスコンテスト、ジャズコンサート、海上保安庁巡視船「えちぜん」の体験航海、ペットボトルのロケット発射およびアジアマーケットなど、敦賀港を望む各会場で様々なイベントが行われています。



巡視船「えちぜん」 体験航海



ペットボトルロケットの発射風景



夜の「アジアマーケット」



舞鶴港のにぎわい



みなとのとびらフェスタでにぎわう舞鶴西港

平成16年5月5日、舞鶴西港に大型客船「あすか」が入港し、係留岸壁近くの大野辺緑地を舞台に、「みなとのとびらフェスタ」が開催されました。

フェスタ当日は、多国籍料理や舞鶴名物「肉じゃが」の屋台、特設ステージではタイの民族舞踊、中国の民族楽器の演奏などが催され、事前宣伝の効果もあって、会場周辺は約1万人の来場客でにぎわいを見せました。



香住港のにぎわい



兵庫県美方郡香美町にある香住漁港では、毎年12月の第一日曜日に「かすみカニ場まつり」を開催し、カニを求めて例年3万人以上の方が来場されます。

当日は、「カニすき雑炊早食い大会や餅まき大会、海産物即売コーナー」のイベントも同時に実施され、大いに盛り上がりしました。



鳥取県境港市 境港

平成18年4月22日寄港



ばしふいっくびいなが寄港

境港といえば水木しげるロード
船内にて鬼太郎と記念撮影!



10月29日は飛鳥Ⅱが寄港予定!



境港の新たなシンボル「江島大橋」(平成16年10月開通)



鳥取県鳥取市 鳥取港

みなとオアシス
登録港

「鳥取・賀露みなとオアシス夏まつり2005!」平成17年7月17・18日開催



毎年、海の日に開催!

出店もたくさんでおなかも大満足でした



子供たちが一生懸命マーチングを披露してくれました



鳥根県浜田市 浜田港

平成17年8月6日開催

浜っ子夏まつり



今年は8月5日に開催!

「観光大使はまだ」の文芸式

鳥根県出雲市 田儀港周辺

平成17年8月6・7日開催

SWIMRUN in 多伎大会

SWIM(水泳)とRUN(走)を組合せた多伎町で誕生した競技



run 21km

swim 2.4km

選手参加
約300人

start

goal

泳いで

毎年8月第1週に開催!

地元ボランティア参加約400人

鳥根県松江市 鳥根町大芦周辺

海のまちサマーフェスティバル in マリンゲートしまね

平成17年7月10日開催

オープニングを祝う舞まき

ひらめの稚魚放流体験

しじみとさぎえの盛り取り



今年は7月2日に開催!



山口県萩市 萩港

平成18年3月17日寄港

スピリット・オブ・オセアヌス



歴史情緒あふれる萩に“海”外からの観光客が来訪

アメリカからの訪問者を中心とした乗客118人が萩の町を散策しました



客船のすぐそばでは、歓迎イベントを開催しました



今年の11月までに、「クリッパーオデッセイ」や「ばしふいっくびいなが」などの客船が16回の寄港を予定しています



大分港でのにぎわい

「大分港・西大分地区みなとまちづくり協議会」により、賑わい創出のイベントやシンポジウムの開催、さらには企業家育成のためのチャレンジショップ(かんたんサーカス)や倉庫を活用した貸し会議室(かんたん倶楽部)等、活発な活動を行っています。



【西大分緑地】



平成17年7月16日
【灯台ライトアップ】



平戸港でのにぎわい

「平戸港みなとまちづくり協議会」により、冬季時の有効活用策としてのイルミネーションイベントや、南蛮貿易時代に実際使用されていた埠頭にプロムナードを設置する等「魅せる演出によるみなどを中心としたみなとまちづくり」を行っています。



【平戸港全景】



【波棚(なだな)プロムナード】



平成16年12月24日

【光と炎のフェスティバル】



名瀬港でのにぎわい

「イベント開催によるみなとの観光振興」のモデルとして、クルーズ船の寄港に合わせ、郷土芸能や郷土料理、乗船客と市民とのレクリエーション等、各種イベントの社会実験を行っています。



【イルミネーション】



【特産品販売】



【歓迎セレモニー】



【送別セレモニー】

平成18年3月5日～6日寄港



【地元小学生による演奏】



【八月踊り】



「日本海側の海岸や海辺に打ち寄せられる漂着物について」の特集記事 「NPOの活動紹介」の特集記事

通巻101号(平成18年11月号)

特集

★★海岸漂着物★★

流木漂着

7月17日頃から、長崎・五島沿岸域に原因不明(東南アジアから?)の流木が大量に漂流しており、海上交通への影響が懸念され、海上保安部は状況把握と回収作業を行ってきました。

その後、保安部より当局へ回収作業の協力依頼があったことから、『がんにゅう』は平戸島周辺の流木回収作業にあたるため、20日早朝、北九州港太刀浦を出航しました。





回収状況

海洋に浮遊するゴミなどが航行船舶の障害にならないように回収作業を行います。また、『がんにゅう』は流出した油の回収も行うことができる兼用船です。

★★NPOの活動紹介★★

はかた夢松原の会

福岡市の博多湾沿いを中心に松の植林活動などに取り組んでいるNPO法人「はかた夢松原の会」は、1987年3月に結成。博多湾に面し、人工海浜公園として埋め立てられた百道浜の海岸に、かつての松林を復活させようと所樹活動を始めました。

松の苗木購入の募金を呼び掛け、協力して蔵田人には領収書代わりに「緑の株券」を発行、その配当もまつぼっくりとするというユニークな取組は注目を集め、会の活動範囲も博多湾の外に拡大している。




11月号

特集

海岸に打ち寄せられる漂着物 (青森県七里長浜)





日本海に面した、冬の七里長浜の様子です。プラスチック製の容器、ドラム缶、船の防舷材らしきものなど様々な漂着物が海岸に打ち寄せられているのが現状です。

1月号

各海岸に打ち寄せられる漂着物

漂着ごみをアートに

【石川県七尾市】

7月の大雨の影響で七尾市内の海岸に漂着した流木を利用して、10月28日、七尾市能登島の祖母ヶ浦漁港わんぱく公園で市民参加型のイベント「流木アート体験」が開催されました。

当日は、いい天気の中、大いさまざまな約10トンの流木を使用して、講師の先生の指導のもと、流木材の特徴を生かしたモニュメント作りが行なわれました。参加者たちは、アート作りに苦労しながらも楽しみながら取り組んでいました。

芸術という新たな形で流木の処分を図りながら、市民に漂着ごみへの関心を高めるいい機会となりました。



流木アート作業の様子

NPOの活動紹介

にいがた湊あねさま倶楽部

地域に根ざした女性の視点から新潟の「みなと」の魅力を講演、情報発信し、より地域の期待に応えられる「みなとづくり、まちづくり」に貢献することを目的に平成15年9月に発足、同17年8月にNPO法人となる。

9月9日夜、新潟みなとトンネルの左岸換気塔である「入船みなとタワー」と「みなと」の新しい魅力をアピールしようと、「にいがた湊の十五夜」を開催しました。

タワー広場に集まった約1,000名の人たちは「お月見」と「タワーの光あそび」を楽しみました。



タワーライトアップ



キャンドルが並べられた大階段



信濃川とタワーに光を映す月
(写真右側は、タワーの塔頭に点灯している月と信濃川)

12月号

NPOの活動紹介

あおりみなとクラブ

「みなとの賑わいの創造」をミッションに、地域の発展を支えてきた青森港及び青森市の歴史・文化について考え、伝承し、またこれらを広く啓発していくとともに、港の活性化に関する整備・運営についての様々な提案を行うことを目的として平成17年9月に認証を受け設立されました。

「みなとオアシスあおり」の運営、「学校教育と連携した海の環境学習モデル事業」の企画、「復元北前型弁才船みちのく丸」の運営など「みなとの元気応援隊」として活動しています。

●みなとオアシスあおり
青函連絡船の発着場周辺を中心としたエリアです。

施設の中心となる「青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸」は、青函連絡船を当時の姿で利用した日本初の鉄道連絡船ミュージアムで、船内には展示スペースのほか、多目的ホールも整備されており、食事休憩、各種催事、海洋学習活動の場として利用されています。

また、「八甲田丸」に隣接する青函緑地では、春から秋にかけてフリーマーケットや様々なイベントが行われ、多くの人が集まる憩いの場になっています。



青函緑地でのフリーマーケット



学校教育と連携した海の環境学習モデル事業

1月号

漂着ゴミの清掃活動

【新潟県明発】

梅雨や台風などの増水で濁流とともに流れ出た多くの流木やワラ・アシ等が海岸や漁港に漂着して景観を壊したり、漁船の航行に支障をきたしています。

特に大量のゴミが漁港内に入った場合は、被害拡大防止のため漁業者は漁を休み撤去作業を余儀なくされます。また、つかみ装置付重機による引き上げやダンプトラックによる運搬の経費がかかり大変な負担となっています。

また、砂浜に漂着したゴミは、イベントや海水浴シーズンが始まるまでに撤去作業を完了しなければならず、予算的にも限度があり事態の收拾に苦慮しています。台風でゴミの量が甚大であったときには、多くの住民ボランティアや地元土木建設業組合関係者等の努力により、美しい海岸を復活していただきました。

幸い今年度は、台風等の増水による大規模なゴミの漂着被害はありませんでしたが、風浪によるゴミの漂着が増え、景観は良い状況にあるとは言えません。山林や田畑の荒廃が、ますますゴミの供給源となることが懸念されます。

海岸に漂着したゴミは砂の付着も多く、環境センター（焼却施設）に持ち込むことが出来ず、また、漂着ゴミの引取りが可能な、民間の産業廃棄物処理業者が近くに無いなど、処分（廃棄）が困難となっています。現在、多量のゴミが漂着した場合の集積地確保が課題となっています。



地元高校生による海岸清掃



平成16年台風23号通過後の漂着ゴミ



漁港内のゴミ清掃作業



引き上げた漁港内のゴミ



清掃ボランティア

2月号

河川海岸一斉清掃～美しい環境を守ろう～

山口県萩市

山口県萩市では、7月の第2週を萩市環境美化週間と定めています。

平成18年は、7月3日～9日、市役所ロビーでのパネル展や廃棄物処理施設見学会を行いました。そして、7月9日（一部地域は16日）、萩市民1万4,000人が、萩地域の河川・海岸32箇所、総延長約63kmを清掃しました。

萩市三見長浜でも海岸清掃

また、7月15日、萩市立三見小・中学校の児童・生徒をはじめ、三見地区住民約220人が、三見長浜海岸の清掃活動を実施しました。

平成2年から毎年1回続けているこの活動は、三見地区の主要行事となっています。

平成17年からは、萩海上保安署指導のもと、小・中学生による海岸漂着ゴミ調査を実施しており、海岸をきれいにするだけでなく、どこからゴミが漂着しているのかを知ることにより海洋環境保護の重要性を学習しています。



漂着ゴミを船で運搬



浜が長いので、ゴミ回収もたいへん



海岸の漂着ゴミ調査



港に陸揚げされた大量の漂着ゴミ

3月号